

【論文】

腐女子の社会学 ―多様な世界観の共存のために―

大坂瑞貴(株サーベイリサーチセンター)

I 問題と目的

日本のアニメや漫画は海外からも注目される文化となっている。一方その陰で、アニメや漫画の中の男性キャラクター同士の恋愛を妄想し、密かに楽しんでいる「腐女子」という女性たちがいる。

本稿では、ツイッターでの参与観察とエッセイ漫画『腐女子のつづ井さん』から、腐女子の日々の活動やコミュニケーションについて明らかにする。そして、腐女子が社会においてどのような意味を持つのか考察していきたい。ツイッターは SNS の一つであるが、腐女子たちも多く利用しており、同じ作品のファンを見つけ交流したり簡易的な二次創作物の発信・鑑賞をしたりする場として利用している。『腐女子のつづ井さん』は、著者であり腐女子のつづ井さんが腐女子の日常生活を描いた絵日記風エッセイ漫画である。

II 腐女子の概要

1. 腐女子とは

腐女子はアニメや漫画の中の男性キャラクター同士の恋愛を妄想し、密かに楽しんでいる。そして、その妄想を二次創作の漫画等に表現する活動をおこなっている。

二次創作活動をする腐女子は、1980年代後半から『キャプテン翼』や『聖闘士星矢』、『サムライトルーパー』などの、美少年キャラクターが登場するテレビアニメのヒットから隆盛していった(山岡, 2016:15-16)。その後、腐女子という言葉が一般メディアで使われるようになったのは『AERA』2005年6月20日号の「萌える女オタク」という特集記事以降であったと言われている(杉浦, 2006:5)。

二次創作の漫画等は同人誌として、即売会や専門店で頒布されている。このような場に行けば腐女子に会うことができるだろう。

しかし、気づいていないだけで腐女子はもっと身近に存在しているかもしれない。なぜなら腐女子は、自分が腐女子であることを隠している場合が多いからだ。実際、筆者が腐女子に参与観察していると言ってから、自分も腐女子であると明かしてくれた友人が3名いた。それまでアニメが好きであることは知っていたが、腐女子だとは分からなかった。

腐女子が好むボーイズラブ(以下、BL)は、鑑賞したことのない人にとっては理解しがたいものである。それゆえ、BL作品に理解を示す相手でなければ腐女子だということは打ち明けられないのだろう。

2. 腐女子の定義

杉浦は、「腐女子」とは男性同士の恋愛やセックスを描く「やおい」や「ボーイズラブ(BL)」を嗜好する女性たちのことだ(杉浦, 2006:5-6)とした上で「最近ではオタク女性全般をさ

す言葉へと広がりを見せている」(杉浦, 2006:9)と述べている。

山岡は、腐女子を「BL 作品を好む人物」と定義して研究をおこなっている。また、山岡の研究の中では、腐女子である限り「好きな作品やキャラクターに対する情熱はなくならないと思う」等の 19 項目からなるオタク度尺度得点も高いことが示唆された(山岡, 2016:23-36)。このことから、BL 作品を好む腐女子はアニメなどに熱中するオタクでもあると言える。

ただし、現在は「オタク」はアニメ・漫画・ゲームだけでなく、その他さまざまな趣味に没頭する人を指す言葉として広く使われているように思う。

そこで、本研究では「腐女子」を図 1 のように定義したい。何らかの趣味に没頭する人を広義のオタクとする。そして、その中でもアニメ・漫画・ゲームに没頭する人を狭義のオタク、さらにそのうち、BL を好む人を「腐女子」と呼ぶ。

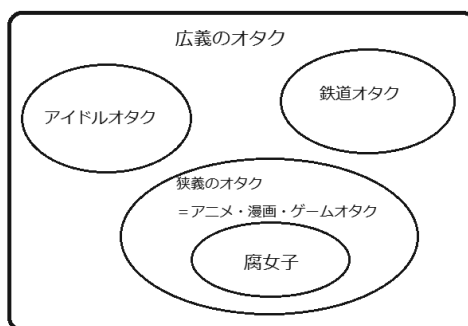


図 1 本研究におけるオタク・腐女子の定義

3. BL の基本概念

腐女子を理解するには、BL の重要基本概念として、「攻め」と「受け」を理解しなければならない。

攻めは性愛場面で挿入する側のキャラクター、受けは性愛場面で挿入される側のキャラクターを指す。BL 作品として制作されていないアニメや漫画でも、腐女子はキャラクター同士の関係性を各自で解釈し、攻めと受けを決定し、キャラクター同士のカップリング(CP)を妄想の中で成立させる。CP の名称は、攻めのキャラクター名を先に、受けを後に表記する。そして、たいていの場合呼びやすいようにキャラクター名は略される。

Ⅲ ツイッターでの参与観察を通して見た腐女子の生態

1. 参与観察対象

本章では、筆者が 2016 年からツイッターを通しておこなった参与観察から、腐女子の生態について明らかにしていきたい。

ツイッターとは「インターネットを通じて 140 字以内の『つぶやき』を不特定多数にリアルタイムに発信し、自分で選択した他人の『つぶやき』を受信するサービス」(津田, 2009:12)である。杉浦は腐女子の交流ツールとしてブログやミクシィを挙げているが(杉浦, 2006:25)、2010 年代においてはツイッターが利用者も多く有用であると考えられる。

自分のツイート(つぶやき)が不特定多数に発信されるといっても、直接受信するのは自分をフォローしている人に限られている。また、フォローを許可した人以外にはツイートを非公開にする機能もある。これにより、ツイッター上では同じ趣味を持つ人同士が選択的につながり合っているため、腐女子は日常での表向きの顔を捨て、匿名で腐女子としての本当の自分をさらけ出すことができる。

筆者はアニメ『おそ松さん』を好むツイッターユーザー集団「おそ松さんクラスタ¹」(以下、松クラスタ)で参与観察をおこなった。

『おそ松さん』は、赤塚不二夫の代表作の一つである『おそ松くん』の六つ子²が、平成の世で大人になった姿を描いたギャグアニメだ。赤塚不二夫生誕八十周年を記念して製作され、2015年10月から2016年3月まで第1期が、2017年10月から2018年3月まで第2期が放送されていた。主人公の六つ子はニートで童貞の20代という設定となっている。

松クラスタの人々は主にアニメの感想・考察や日々の自分の行動などのツイート、画像の投稿機能を用いた二次創作の漫画やイラスト³の発信・鑑賞、リプライを通じたフォロワーとの交流をおこなっている。

2. 出会い

長谷川は、「社会」を「異なる人間たちが、限られた空間のなかでともに住み合っていくことを可能にする知恵あるいは仕掛けの総体」と呼んだ(長谷川, 2007:2)。この定義に従えば、ツイッターでも高度な社会が成立していると筆者は考える。なぜならツイッターには、実社会と同様にさまざまな趣味をもつ人間がいて、自由な内容のツイートをしているが、なんらかの“自然発生的な知恵や仕掛け”によって、破綻することなく運営がなされているからだ。

さて、出会いは見知らぬユーザー同士が手探りでつながり合う社会のはじまりだ。ここでの腐女子たちの“自然発生的な知恵や仕掛け”を見ていこう。

筆者も他のユーザーが利用しているように、ハッシュタグによって他のユーザーとつながることを試みた。ハッシュタグ(略して「タグ」)は、ツイッターの機能の一つで、「#」に続いて言葉が入力されたもので、クリックすると同じタグが含まれるツイートを検索できる。例えば「#おそ松さんクラスタと繋がりたい」を含めたツイートをすると、他のユーザーが「#おそ松さんクラスタと繋がりたい」を検索することによって、簡単にツイッター上でつながり合える。みんなが同じタグを用いることで、同じ志の人を一気にたくさん発見できる。このとき、自分の推しキャラ(最も好きなキャラクター)や推しCP(最も好きなカップリング)の記載、自作のイラスト等の添付をしてツイートすることで、より趣味の近い人とつながり合える可能性が高くなる。なお、タグを用いた趣味の近いユーザーの検索は腐女子のみが行っているわけではない。

ツイートだけでなく、プロフィールを見てつながりたいかどうか判断することも多い。プロフィールにも推しキャラ・推しCP、作品に対する愛、注意などを自由に書き込んでいる。R指定のコンテンツを閲覧できる18歳以上であることを示すために大まかな年齢(「18歳以上」など)を記す人も多い。

このとき、いきなりフォローすると相手が不快に思うかもしれないので、リプライで一声かける場合もある。ハッシュタグやプロフィールをみただけでつながる人は、ツイッター上とはいえ初対面の人である。腐女子は同じ志を持つ者となつたがりたいたいと思いつつ、手探りで、

¹ クラスタとは、ツイッター上での同じ趣味を持つユーザー集団全般を意味する。

² おそ松、カラ松、チョコ松、一松、十四松、トド松

³ 二次創作物の発表にはpixivという専用サイトがある。ツイッターでは簡易的な作品が公表される場合が多い。

かつ礼儀正しく、ツイッター上で出会うのだ。

3. 配慮

さまざまな趣味嗜好を持つオタク同士が心地よくツイッターを楽しむために、出会いの場面以外にも暗黙のマナーと呼ぶべきいろいろな配慮がなされる。

腐女子特有の、世界観を守るための配慮もある。一口に腐女子といえど、いろいろな趣味嗜好のパターンがある。地雷⁴のある人・ない人、公式の設定を壊したくない人、シリアスな妄想が好きな人、特殊な性的嗜好を持つ人…。作品に没頭しているオタクでもある腐女子にとって、世界観の破壊はそれぞれの生き甲斐を揺るがしかねない重大事なのである。

まず、“地雷”を踏まないために、二次創作物を投稿するときには CP 名を併記することは重要である。

さらに、自己の世界観を表現しつつ他者の世界観を保護するため、二次創作物にはしばしば「※○○注意」等の注意書きがなされる。例えばキャラクターが死ぬ内容には「※死ネタ注意」、公式にはいない無名のキャラクターが登場する(場合によっては公式のキャラクターと性的接触をする)内容には「※モブ注意」という注意書きがなされる。また、腐女子が腐女子として密かに生きていくことを守るための「※背後注意」という注意書きもある。これは、パソコンやスマートフォンで二次創作物を閲覧する際に誤って背後から他者に見られて、恥ずかしい思いをしたり社会的立場が傷ついたりすることを防ぐための注意書きだ。主に性的な内容を含む作品に付けられる。

男性たちの恋愛を妄想している腐女子は、腐女子でない人からは理解されにくい存在である。さらに腐女子同士においても、自分の推し CP は他者の地雷であり、自分の地雷が他者の推し CP であるかもしれないという不安定な状況に置かれている。こうした理解されにくさを抱えながら、今あげた配慮の行動により、腐女子たちは地雷を踏まず、踏まれず、各々の世界観で平穩に作品を楽しむ努力をしている。

4. 妄想する

腐女子の生態として、非腐女子にとって最も不可解と思われるのが「妄想」だろう。

杉浦は「「妄想」する余地を用意してある作品を、腐女子は好むのである」と述べている(杉浦, 2006:55)。多くの腐女子はその妄想を、漫画やイラスト、小説で表現する。

この節では、腐女子の妄想力がいかに高度か、『おそ松さん』22話に登場する「あつしくん」を例に紹介する。

『おそ松さん』22話では、松野家の末弟・トド松が合コン要員を一人探す。その候補にいたのが「あつしくん」だ。あつしくんは「一軍」であり「見た目悪くないし車持ってる」ため、自分と同レベルの人を呼びたいトド松は却下する。その後、六つ子の兄たちが合コン要員に立候補し、オーディションが行われるが全員不合格となる。最後の場面で合コンには結局あつしくんが選ばれたことが明らかにされる。あつしくんは「ドライブ行きたーい」と言う女の子に対し、「うん、休み取れたらね」と言う。登場場面はこの一瞬で終了だ。

それにもかかわらず、松クラス内は「あつトド」の CP で盛り上がった。これまでアニ

⁴ 妄想の中において認められない CP や設定、解釈、シチュエーションなどのこと。

メの中では、六つ子の交友関係は原作にも登場するチビ太やハタ坊しか描かれていなかった。しかし、トド松に新たな友人が現れたことで、腐女子たちはあつしくんとトド松の関係を解釈し、“車を買えるほど稼いでいて、女の子に対して「休み取れたらね」と言うくらいには普段忙しいに違いない。なのに、トド松の急な誘いに来るなんて、トド松のことが好きに違いない”などの妄想が喚起された。そして、合コンの帰りにトド松を自宅にお持ち帰りする話や六つ子の兄たちとあつしくんがトド松を奪い合う話、あつしくんとトド松の出会いを妄想した話など、多様な二次創作が生み出された。

「あつトド」はオンリーイベント⁵が開催されるほどの人気ぶりとなった。なお、こうした人気の影響を受けたためか、2019年3月公開の映画「えいがのおそ松さん」にも、あつしくんが登場する。

以上のように、参与観察から腐女子は一瞬しか登場していないキャラクターでもカップリング化が可能な、高度な妄想力を持つことが示唆された。

あまりに高度で性的な内容も含む妄想は、腐女子本人にとっても淫らで危険、あるいは異常な思想であるという自覚がある。山岡の研究では、腐女子自身が腐女子をアブノーマルな存在としてイメージしていることが示されている(山岡, 2016:86-105)。そのため腐女子は、日常では腐女子であることを隠し、理解し合える仲間としか妄想について語らないのである。また、参与観察の中で、一部の松クラスタが投稿した性的な内容のイラストが非腐女子の目に止まって批判が殺到するという事象が発生しており、実際に腐女子の妄想が社会通念的には望ましくない場合もあると言える。

IV 『腐女子のつづ井さん』を通して見た腐女子の生態

本章では、『腐女子のつづ井さん』『腐女子のつづ井さん2』を参考に、実際の腐女子の日常とは如何なるものかを把握する。

『腐女子のつづ井さん』シリーズは、オタクで腐女子であるつづ井さんが、腐女子としての生活や仲間との交流を面白おかしく描いたエッセイ漫画である。書籍は累計30万部を売り上げ⁶、LINEスタンプも販売されており、多くの腐女子に共感を得ている。

簡単にこの絵日記の主な登場人物を紹介する。つづ井さんの幼なじみで「オタクで腐女子」のゾフ田。つづ井さんの大学の友人で「オタクで腐女子」、「擬態⁷の神」Mちゃん。ゾフ田の紹介で友達になった「オタクで腐女子」オカザキさんである。

1. 仲間の必要性

充実した腐女子生活には、分かり合える仲間の存在は大きい。興奮したシーンや推しキャラの萌えるしぐさについては誰かと語りたくなる。また、社会通念的に受け入れてもらえないと思われる自分の思考が、誰か一人にでも共感してもらえれば心強い。

そこで、まずはつづ井さんとMちゃん、オカザキさんとのそれぞれの出会い、普段のやりとりを見ていきたい。

⁵ 一つの作品やキャラクター、CP等に特化した同人誌即売会。

⁶ <https://www.kadokawa.co.jp/product/321712000329/> KADOKAWAのホームページより2019年3月20日取得、売り上げは2018年2月時点。

⁷ 日常生活において、腐女子だとばれないように振る舞うこと。

仲間との出会いは第一章で述べたツイッター同様、恐る恐るしたものがあった。「腐女子と新しい仲間」(つづ井, 2016a:31-33)はゾフ田のオタク友達であるオカザキさんと知り合う話だ。以下はその際のつづ井さんの心情である。

もっと仲良くなりたい…けどオカザキさんがどれくらいオタクかそしてどんなタイプのオタクかまだわからん…もっと言うと夢女子か腐女子かによっても互いに地雷を踏み抜くこともありうる

次に、大学の友人Mちゃんがオタクであると分かったときのつづ井さんの心情も引用する(つづ井, 2016b:144)。

今までオタクの話できる友人ほぼおらんかったから嬉しい…でももしかしたらオタクとしてのポリシーとかニュアンスが違うかもしれん…腐女子かどうかはまだわからん
慎重に距離つめていこう

「どれくらいオタクか」「どんなタイプのオタクか」というのは興味深い尺度である。ただ単にアニメを観るだけなら誰でもしている行動である。しかし、本当にオタクなら量的問題として「沼に浸かっている」と比喻されるほど、社会通念的に理解されにくいレベルで熱中している。また、同レベルの「沼」の浸かり方をしている、過激な腐女子なら推しCPの妄想しか許せない、などの質的問題もある。せっかく仲良くなっても、解釈違いにより友人との関係が崩壊する危険がある。その結果、「慎重に距離つめていこう」となるのだ。

こうした障壁を乗り越えて、つづ井さんは腐女子の仲間を得るが、仲良くなってからも慎重になることもある。「腐女子とそれでも変わらぬ友情」(つづ井, 2016b:140-141)は、Mちゃんとアニメ鑑賞中に解釈違いが起き、緊張が走る話だ。

また、つづ井さんの申し出に仲間たちが即答で賛同し、つづ井さんが「好き」「最高」などとつぶやく場面が多々ある。もちろんゾフ田のように理解できない時は「わからん」と言ってくれることもありがたい(つづ井, 2016b:103)。社会通念的に理解しがたいまでに沼に浸かった腐女子として幸せに生きていくには、同レベルの量的「沼」度と同方向の質的嗜好を持つ友人の存在が不可欠なのである。

2. 「み」を感じる

ここで言う「み」とは、ごく最近の若者言葉で、「痛み」や「甘み」などの接尾語「み」の使用範囲を拡大したものだ。「つらみ」や「わかりみ」などが代表である。例えば、「つらさ」という一般的な表現よりも「つらみ」の方が、内面から滲み出て来る感覚がある。

オタクや腐女子の中では、推しのアニメやキャラに「み」をつけることもある。例えば、『おそ松さん』らしさがある何らかの事物に対して「松み」と表現することができる。つまり、推しキャラを想起させるものに対してオタクは「み」があると感じるのである。

つづ井さんの絵日記の中には推しのアニメやキャラに対する「み」という言葉は直接出て

⁸ 自分と推しキャラとの恋愛を妄想して楽しむオタク

こないが、腐女子の感覚を伝えるうえで大切な概念だと筆者は考える。

絵日記の中で、つづ井さんはアニメに関係のないJポップの歌詞を推しCPの関係性に置き換えてオカザキさんと熱く議論する(つづ井, 2016a:14-15)。また、スポーツ系アニメ公式グッズのユニフォームに、推しキャラが使っているような市販の制汗剤を吹きかけて、推しの存在をリアルに感じようとしている(つづ井, 2016a:146)。

こうした、アニメに関係のないJポップの歌詞に推しCPをあてはめたり、推しキャラが使っているような制汗剤を選ぶ能力が、「み」を感じるということである。「み」を感じることができれば、日常生活が推しで溢れ、幸せになる。誰にも悟られずに、四六時中身近に推しを感じることもできる。

ただし、腐女子が勝手に「み」を感じているだけなので、対象物の制作者や普通に対象物を楽しんでいる人が不快に思わないために、一般の人に知られずに個人で楽しむよう注意しなければならない。

3. 推しキャラへの愛

杉浦は、「腐女子の総本山とも言える出版社」であるピブロスの雑誌『オタクエリート』創刊号における、腐女子についての「キャラクターを愛するという意味では男性オタクと同じだが、そこに自分は介在しない」という記事を紹介している(杉浦, 2006:93-94)。

攻めと受けの恋愛を見守り、成就を祈ること、それが腐女子のキャラクターの愛し方である。

「腐女子と新たな視点」(つづ井, 2016b:98-100)における、つづ井さんとゾフ田の会話を引用する。

つづ井：ゾフ田は腐女子やん

ゾフ田：ええ

つづ井：8年間同じカップリングを推し続けている腐女子やん

ゾフ田：ええ 彼らが住む部屋の壁になりたいよ ずっと

つづ井：そうなん 私も推しカプの部屋の壁や観葉植物や酸素になりたかった 腐女子としての最高の幸せはそれしかないって信じてきた でも今は……推しカプの当て馬になりたい…(中略)つまり推しカプの幸せの礎になりたい…私という犠牲のもとに幸せになってほしい

ゾフ田：……それは…あまりにも図々しくない？

つづ井：絶対言われると思った…

ゾフ田：何…？神聖な2人の間に介入するの…？邪魔じゃない…？

この会話から、腐女子にとって推しCPは神聖な存在で、自らの入る余地のないものであると認識されていることが分かる。基本的に自分の存在は推しCPにとって邪魔なのである。他にも絵日記には男性たちの幸せを祈る腐女子の姿がいくつも描かれている。

また、推しキャラの存在を愛おしむあまり宇宙にまで感謝したり(つづ井, 2016a:88-89)、推しキャラの誕生日を祝ったりしている(つづ井, 2016b:156-165)。

絵日記に登場する腐女子たちには恋人がいない。そのことについて触れた章も二冊の絵

日記両方に存在し(「腐女子と恋愛」「腐女子はお年頃」など)、つづ井さんたちも客観的に見て現実生活が満ち足りているとは思っていないようだ。それでも彼女たちは、推しキャラや推し CP の幸せを祈ることで自らも幸せを感じているのである。

4. 否定と虚無に打ち勝つ

オタクや腐女子には、偏見や社会通念的に理解されない部分がある。こうした世間からの否定に打ち勝つことが、幸せな腐女子には必要である。

オカザキさんは、ギャルの友人に、アニメキャラのタペストリー(一万円)を持っていることを話した時に「えー！！ないわ！！！！」と言われるが、このように反論した。

うるせ〜〜〜〜！！！！ 私の趣味です！！あなたが爪やら髪やらにかけとる金額聞いても私「ないわー」って言うことないでしょうが！！ こっちは何なら爪は消耗品くらいに思っとるからそこにお金かけるの実際あんまよくわからんけどバカにしたことないでしょ 各々稼いだ賃金を各々の好きなように使ってるんだよ 爪ぬったり髪巻いたりすることより私にとってはアニメグッズ買う方が自分へのごほうびやし自分みがきのなの それによって救われてるの！！(つづ井, 2016a:118-121)。

このオカザキさんの言葉から、オタクや腐女子は自分の好きなものを大切にするが、他者の好きなものも尊重できるようになるのだと筆者は考える。自分の好きなものへの信念がオタクや腐女子を強くする。実際、それによって救われるのだから。しかし、オタクや腐女子の戦いの相手は世間だけにとどまらない。自分の行為への虚無感とも戦わなければならない。

つづ井さんとオカザキさんは、推しキャラのために手作りマスコットを2泊3日で作るが、最後につづ井さんは「次の日色々冷静になって少し泣きました」と述べる(つづ井, 2016a:146-156)。

腐女子の推しキャラは漫画やアニメの中の二次元の人物であり、この世に実在しない。どれだけ誕生日を祝福しても、どれだけグッズを買っても、推しキャラには届かない。推しキャラと違う次元に自分が生きていると気づくとき、それでも自分が幸せを感じるためには虚無感にも打ち勝たなければならないのだ。

V 腐女子の社会的意味

1. 腐女子が社会へ訴えていること

ツイッターでの参与観察と『腐女子のつづ井さん』を通して、腐女子は他者から理解されない不安定さと常に戦いながら、それぞれの世界観を守り、楽しんでいることが明らかになった。なぜ腐女子はこれほどまでに不安定な状況に置かれ、日常的には腐女子であることを隠してまで、腐女子としての活動をやめないのだろうか。

妄想は心の活動であり、やめようとしても簡単にはやめられないのだと言うこともできるが、アニメ・漫画の鑑賞や二次創作、仲間との交流は腐女子の生活の中心、生き甲斐となっているため、やめられるものではないと考えられる。前章で紹介したオカザキさんの言葉にもあるように、腐女子は自分の愛するものへの強い信念を持っており、つらい出来事があ

っても腐女子としての活動によって救われているのである。このように見ると、腐女子の生活はかなり充実している。生活の充実性に関しては、他の趣味活動に熱中している人と何ら変わらない。

逆にこれほど充実した生活が隠されているのは、腐女子が愛するアニメや漫画、BLに対して社会通念的にネガティブなイメージが持たれているためもあるだろう。そしてそれは腐女子自身も自覚している。山岡の研究では、スポーツ等を趣味としている群の腐女子のアンノーマル感イメージが高いことが示され、「スポーツ好きな自分たち、あるいはお笑いやディズニー好きな自分たちは社会の多数派であり、健全な存在だと自己正当化しやすい。自分たちに理解できない不健全な趣味に熱中する腐女子を異常者として否定することは当然だ、と考えやすいのである」と考察している(山岡, 2016:101)。隠されているだけであって、ツイッターを見る限りでもたくさんの腐女子がおり、目につきやすい趣味だけが「社会の多数派」とは言えないのではないだろうか。

等しく尊重されるべきはずの趣味活動に優劣がつけられてしまっていることを、腐女子は社会に対して訴えていると筆者は考える。

2. 腐女子から社会が学ぶべきこと

BLを好み、高度な妄想力を持つ腐女子は、非腐女子から理解されにくい。同時に腐女子同士でも作品に対する解釈の違いから、自分の妄想の世界観が壊されたり他者の世界観を壊したりする危険を回避するさまざまな配慮をしている。一方で、それぞれの世界観を守り合い、共存させることができれば、愛する作品・キャラクターと分かり合える仲間に囲まれ、幸福感に満たされることができる。

社会には多種多様な人々がいるので、理解し合えない時も多い。しかし、理解し合えないところでは折り合いをつけ、理解し合えたら最高の仲間になる。自分の大切にしている価値観を守りたいならば、他者の価値観も傷つけない努力も必要である。

理解されにくさの中でそれぞれの世界観を共存させ、分かり合える仲間を得ようとしている腐女子の姿勢は、今後、多様な価値観を認め合える社会を作っていく上で必要になるものだと筆者は考える。

<付記>

本稿は岩手大学人文社会科学部人間科学課程行動科学コース 2016 年度地域社会学演習での発表資料を加筆修正したものである。

文献

- おそ松さん製作委員会、2016『OSOMATSUSAN/8』「希望の星、トド松」avex pictures
杉浦由美子、2006『腐女子化する世界 東池袋のオタク女子たち』中公新書ラクレ
津田大介、2009『Twitter 社会論 新たなリアルタイム・ウェブの潮流』洋泉社
つづ井、2016a『腐女子のつづ井さん』KADOKAWA
つづ井、2016b『腐女子のつづ井さん2』KADOKAWA
長谷川公一、2007「新しい社会学のために」長谷川公一他(編)『社会学』有斐閣 1-16
山岡重行、2016『腐女子の社会学 彼女たちはなぜBL(男性同性愛)を好むのか?』福村出版